# KSK NPOIX (260) CILERIAL



2023年3月号

こんごう ひょうし とよなかつうしん そうかんごう ※今号の表紙デザインは「CIL豊中通信」創刊号をオマージュしたものです。

KSK(NPO法人CIL豊中通信Vol.60)第三種郵便物承認通巻三六六○号 二○二三年三月二十日発行 一九八四年八月二十日第三種郵便物承認 毎月五回(五、十、十五、二十、二十五日)発行

# CIL豊中通信 60号



03

# CIL 無中の 道のり、そして学

- 15 豊中地域情報ばびゅーん!! Part.10
- 16 わくわーく見っけ!! Part.3
- 18 | 投稿コーナー
- 21 運転免許戦得 [極秘] プロジェクト Part.6
- 22 哲珍の部屋
- 24 ねや散歩 Part.13
- 25 サービスのご繁労
- 27 CIL豊中 各部削だより
- 28 編集後記

t 02 20 現が期きマ な L 盛まく 目的 通言 難だお เฉ 0 しとなり ŧ 年恕 的€ インタビュ 通 期\* か うござ 読』い イライ な わるスタッフや、 て は 懐 お、 は 年た はどう歩んでゆくのか?作成 第0号では、大きくモデル เฉ 広う 0 み っ 下着も 発情行家 たし 想到 春めの 現広報誌創 の 像ぎ 頃 広 フとよなか」 t เก 4 ま みを対 今号をも 報誌 かしい 生活であったことが、 ŧ 7 同な同等 ŧ 2 回発行しており、 創刊号を す。 何無意 ていましたが、ここで تا 時 7 た。今後、CI を行いました てい 12 u です。7年10月発行 **今**え 広報等は C 象とします。 3 節它 刊以前は、「 目がと 年热 って ませんでした。 1 という通 か さ 作 き 創 成問 な 何号まで続う 中源 ŋ C ŧ ŧ っ 60 Т 年中に最高 チェン 信を し て 号 L 3 た。 創等 関於 の 中等 を 定 刊於節於中於有數

2事 中なは、 中とし 身の団だ 規模が大きくなれば は れ しさ」を今一 数も増え、「CIL観 開於 4 今え 要となるかも知れません。その意味 ょ ス テ タ センター・とよな る運 月ぎ 1 なる ば ター 設等。 てか 回か -ー」の2つに事務 」と「豊中市 ボ ショ 「ヘル さ U 0 7 から、 - 日付けで、 かも 体で 特集が少しでも切り 営となっています。 いなと思いました。 ٨ 22 て再スタ が 所が開設)。 一ン、11年 年想 N パ 知れませ ズ&ガ 30 P 今回は非常 設等 度認識し 周智 3 0 少路 し ステ 年を 法 1 て、 障 には トを か んが、 所が P 迎 07 ル 書於C 現場 書於 ショ - 0 法 直す機会も、 ズ 児ピ 年為 切ŧ えまし が 者。 1 自じ立り 在意 l 分かか 93 自立当 ΙΞ 童等 古た っ 時。 相等 ンC スタ がそ 年想 人比 C デ 訪 掛<sup>か</sup> け 支い h C U 代 た。 非中 生世 中等 イ 問な 支し ħ いまし 03 内部 IJ # T 最意 ı Ī 活物 かん 後一容等 Ĺ เฮ セ L フ 所是 ぞ 年於 L 02 発 5 な 必 足。助於前點 の た IE I I セ ス

ま

でお付き合い下さい。

#### とよ なか

いま

# 第一章《広報誌2周年6号

# ◎編集スタッフに聞きましてん

Q ・ンをごえ 国项 手で に シ 毎 まい いかい を 取<sup>と</sup> つ 担た では が てもらえるよう け し 力を入れている事 な て い 7 Ü ( ) ` で す ŧ る す の לל で、 表が 紙Ĺ な 皆な さ デ は ザ L ザ P

でもらえることを 解か ŋ 易費 n 文剂 章 で、 試 4 4 7 ٨ な U 3 เฉ 読。

上記 が ₹ な ル 部分を前 「やっぱ の 思ま 減~ パ な 防雪 って 子。 衛 は ŋ つ 生きら. 7 算款 福蓉 ゃ の を n 単だ 祉し か n ŋ 3 50 **\** どん 面が 価が の Ć ħ 予。 ŧ に 出だ I 今。 なく どん そう 算点 下さ 運え L げ き 国台 動ぎ し だ なる 5 削排 な 削げ 7 し は か れて ħ 5 5 な つ 福营 ば れ 7 U 祉し ζ 介於 Ł う ゃ 運え 護 防雪教賞 か 動ぎ 度を職を入 衛流育な 的き ()

材意な れ (1 わく 3 7 j 所は ヮ る。 う を I な 紹覧 クを 特: 記\* 介於 し 担な を 就響 た 当<sup>き</sup>し 労る出た ŋ ĺ し た。 関沈た 前表 ጛኘ < 向む 7 ŧ 7 新た 取はに

Q 2

E

印象に残る取材や記事

は

こと と と 5 0 し 伝た 障が 7 な . 最き にえる **書**だ を か、 書が 5 初』 伝え 者〟い な の ر える 記書 เฉ 7 ۲) 頃 とっ 事じ れ た Ł は .へと変 記書 け が (1 بخ 事。 あ 7 う 読 3 生世 4 わ 読。 ٨ 活 最談 لح ゃ .. つ て 4 だ を lΞ 近意 ゃ ょ 役∜は ₹ Ł Ē す <del>廿</del>だ 番ばん た ここ さ (1 地。意い う か 域は識と

私は文章 ゃ 4 っ たとい ٨ เฉ 章 色い 書がく 分常 、 う 記章 の 々いる ・赤を が苦 連ね 憶 載さ L 苦が手で 記書 か 事じ れら <u>で</u> \_ぃ な 過<sup>,</sup> (I) れ ぎて、 杯ば 7 大た 杯。 変沧 根瘤

程は勿論な 3 活 写場 か つ 木 た。 真点 5 < 上刻 か I 1 **創**樣 で、 し 冊 5 厶 な لح ジ 刊% はり過ぎた点! 貴重な特技な 貴፥ な か 版ば 子レペ の 版ば 広』が にこだ I あ で 頃 報等らるは、社会は 見ở ジ は ŧ は Ħ 全ti だ が ŧ 会など、 わ 面がけ 発導 す は だ を に し 反<sup>悲</sup> 生ぃ ż Ė 展元 参え っ カ S 活 た。 を き 加ゥ 自じ ラ 期፥ Ν か 甲がを 分常 果たの I だ 特々 S せ の 苦<sup>派</sup> 特<sup>を</sup> 手<sup>で</sup> 技<sup>\*</sup> な 充場 7 ŧ L เฉ っ る た。 大ぉ ホ で 実 ٨ 無な 反は 八き な なで エ〟も 4 < ŧ 1 面が あ t ŧ  $\triangle$ 

> 行 っ

た

のが

印》

。 象に

·残º て

U

る

「株式・

会社きると(

第点

39

号音

特

す t カ 「えりとマ の 7 筆。連為 · 者ه 載意 の さ 子<sup>-</sup> れ マ 育だ て 7 の (1 珍 日に た、 道 記

中;

記

度ど

脳乳第だ

性# 11

麻舞号

の 記書 取点 事: 材ぎ 一本 ラ 子( 第:5 (**第**指 20 14 Ź 号 号 デト 特 ミハ 特景 ウス盲 じや 導 利り 訓ź 条 練れ 約ゃ施い

色』の 「過去号を 々がは、 追ぉ つ た 記 障計 事に ん で 立当 支ぃ 印光 援え 法。象。 に の 動這残學 き つ ŧ た

文 章 に に 行ぃ こと?』 を אֿל **「**にゅう 医い 解於 学でモ 説ま つ た報告記す 職 したことで 4 間載 ک (۱ デ れ ŧ ル 7 な う Ł 最為社會事() 感 最意 腑。 تا เこ だ 48 は Ŧ 落ぉ 号; 基彎 っ ¬ デ ち 幹% ル た た う 東が の の の 先表 研以 Ŋ 違が が 修

を 自分だけで を つ てきて、 んでると とても ~ ゃ な ٨ เา < 良 う 他が の か の 特炎 の 担なると が た 凄 ( 第点 1 < ŧ

根箭「出生前診断の特集(第4号)で、

阪は できた 大だ 単だ 病紫 Ī 遺い Ā 伝え 子し な 緊急 張遠之 診り 11 7" 所 身<sub></sub>∌ が ŧ l で 行 震 乗の っ え たし ŋ た 込=

### <u>F</u> 年前に 大幅 なリニ Ŧ Ì ア ル を

その

٤ るこ 僕樣 à の は 施したが、 「リニュ た で だ 員に もうとは 過か イ ほう j 程识 لح け โ アン וֹל เฉ (1 ス تا が 変えようと け 1 大ぉ な Ħ I る U ケー 幅は つ な な ア か かっ T เฉ た (1 か ゛ル な? と 思<sup>‡</sup> が、 変ゕ タ な 前装経は 乱は、 を わ た。 I か 緯は کے そう 3 思ま 思ま 取と ŧ 7 訳得 使% だ っ わ っ 手で い る で、 から た て、 な っ な lΞ 3 7 5 (1 取占 の 当りと変か時に制じえ 先♯ な (1 つ は、 変ゕず 7 た あ

#### Q KS **H**# きれ る苦労 話 B 裏 話 は 9

「 最ii 初ii まで ン 先太 真舞 生世 ĺ っ か 書がしい 思うく 赤ゥ っ た記 記 事 か 5 l を、 さ (1 れ 頭を た 根和 箭。 忽然 か 5 l 最高赤

さ 白岩 が (I) の 無む け 箭物 記書 (1 تا 事に ゃ Ł を 後臺 な チ 半ん . , () は エ よ)に、 すごく **全**ぜん ッ ク 大ぉ し  $\neg$ 岩が 前だ 抽 7 君ź 半はい 5 的₹ はた

> 注 を 受 it たこと が あ っ た

「 手▽ 由ゆう เこ ጛ፣ 打ゥ 動き 7 か な な < < なっ な ŋ た の パ ソコン が 苦‹ を

西 村 ഗ 全部を経り . 最i 初』 は 事じ 験はなり 務也 ŋ 所ょ 来き で た オ 参え の IJ 加か אֿל L .良\*かっ メ 구 ĺΞ の 後を たし 7 才

本₺ ゃ 7 根和 痛乳 「文章を書 H っ だった。 箭。 たら抜ぬ などに ٨ 番ば な U เฉ 書<sup>か</sup> く Ŋ 赤り 書か け 広う の 5 報り ~ か ぱ、 ħ 誌し シ の す を 入<sub>い</sub> 3 が 0 編紀 編â 苦ば だろう?と」  $\neg$ 集 集 何な れ 手⋷ 員に で 長芸 過<sup>,</sup> 5 か 私た ₹" เฉ らどう れ ٠ ۲ が な 7 苦<

か なア カンねん!』 と言っ 7 書か っ

#### 0 HE S 14 集は 15 # # 7

根物赤蜘蛉Q 箭物 塚が 冶比 1 2 2 2 0 0 0 1 0 1 長 8 6 0 を 年ねん 年2 年2 務 6 4 4 月ぢ 月ぢ 月ぢ め 5 5 5 3 3 10 ( 41 在 年 年 年 7 年 7 年 7 6 3 月ぢ 月ぢ 期 ?

鍛か Q 治じ 2 を付け **当**号 時、 の情報を発信させること」でいたことは? 最き もこだわ 9 ( 41 9 気き

> 赤が 柔や 点 5 あ か ŧ () ŋ 感な ιΞ ٿا ŧ เฉ 撃だ 苦 7 し 読』 か 4 つ ゃ た す の ڗ さ

根和 箭物 なき執る ること。 な 毎ま が 号 < あ 個= ゼロ っ を 性点 念を燃 て、 置ぉ ルビミスや誤字脱字を 勿點 ゃ เ ₹ 論る 特 た するん 記事も 色紫 やしてきた イ か ア が ・ウト あ た تا 充り ŋ Ħ 実し ŧ ļ 整 読。 Ť っ 4 U 限が 飽ぁ 7 応だ 3 ŋ (1 え

## Q 3 L かっ 苦労した思い出や、 思。 い出は 良かっ

鍛か 冶比 7 ンス は 苦< うこと 会かり 会が必ら を เฉ () な 広う た。 議ぎ 要は す る な 話 根和 ź つ て、  $\vdash$ 労 の 箭ゃ Ł け の を 報誌は、 き 学 ٤ 機፥ 前ぇ IJ し さ (1 ŧ ŧ う 1 た は Ł だ ٨ ジ 会か 若が 意い が 今ま か 毎ま ば が  $\triangle$ 80 ュ な が 多ぉ の 協 回か せ る か パ X 味艹 僕﹝ 重ぉ ŧ 7 編â 7 ソ U 仕し 会か の っ ίΞ か < コン か 事毫 7 僕《 が た は 集 ŧ 5 で れ 僕∜役∜ 働は 下~ 後章 の は 7 が เฉ 西信 記章 を IJ 文刻 手で立た文党 7 清點 7 宮な を 章 13 編ネ 章は っ 切き 7 の くと 集しゅうちょう 書がた 力表表等年為 < っ し メ の 7 (1 が 現だに イ

根和 赤が 塚が I さんに が 動: 私: ビチェックや校正 は ₹ 助 回表形 けられ ば っ 7 か ŋ () 7 で た n 目に 象』ほ ぼ

根ね

箭∜

(1

つ

ŧ さ

う、 労 ŧ 口分 7 は 期ᡱ 作? 1 くるまでは焦り 3 議者 は ラスト |負。作業中のパソコン 無きトンネル。 お約束で、時々ストレ 宿り 値常。 完成形は (産み) 泣く泣く文章を削り ŧ た。 の 苦手だから、 で、 新たら 完成版形の しい 扱が I เา タ の苦し 、号を創り I を覚えるま خ ص 誌 面% イメ で入稿デ 編â っても み」で、こ 集会議 โ 闘た ージが見え は ス 始問 の 収ぎ (1 大だ 毎ま で、 まる ~ 1 不。回於 め 噴ぎ (I) 、 る。 前ぇ る は タを 具《忍憑 火か ょ れ 時□苦‹ は 出で 合意 耐热

形物 感たた ャ · 緊急 張き F 完於 た は 時≨ が 成時 出で ŧ の がする。 代ゕ 何を 安恕 を 来⁵ て 案が 堵ど見み 漸な ゃ チ ŧ

Q 5,

今の広報誌や編

長に対して、

鍛か

す

かりデジタ

゛

化如

もされ

7

メッセージは?

綺

麗れ

になったと思う。ここまで作

無な た 難だ の < וֹל () 作 U の 成点 ŧ で死ぬほど苦労 ŧ あ 短指替 担たっ 当<sup>を</sup>た。 期きは 間%HP 内: 版: 最続に ŧ 絵表近意 工( 一ts 何為 夫勢 の か す 才許号 5 た 3 能の ታነ が 漫りの つ 全り画がは 7 < 楽がい

# Q の制作工程は

鍛か

で。 「そんなに絡 発送の時 はしてい たけど」 ์เร่ んでは 郵き 便火 (1 局。な に か 集 っ 荷がた の の

赤が 根和 箭。 H スリ った 後 U ı 多ぉ -タム§HP 開かし も 「創刊初期 「パソコンで処理や かっ はいいにも は全て自前で手 た様な・・・。 が ム化された」 開業者 た。 。 割款 現ば **付**辞 来てもらっ な ば、 ŋ, 在意な Ρ เこ これ ۳ 依い は 印以 刷き D デ 頼凯 作 の ず F ŧ Ł 細量 7 (1 I す 根箭さん 作 折 沙 ふ タを 3 ፠ か テ (1 業 ・キス た。 ように n ٨ ボラン を 作ᡈ <u>|</u> 業 頁급 括さ ₹ が 送が 組、 デ の な テ 7

X

ャ

X



2003年2月。 マラカルレジゼ ロ゚ニラ ポ ワ゚ス ロ゚ ロ゚ デォラឆラ ﻟﺒ゙ン 創刊初期の頃の折り込み作業風景。 稲津事務所の旧LPルームにて。



から、 は、 3 る。 t の 親元でも て く は 一般就労に憧 自じ 立り 凄 た れ ま (1 う。 る。 をしたが เ 労 充。 分 秦 道 秦 読』 力 f) が لح れて、 らな 5 の 3 岩が し 中か だ 自じ < 7 (1 ŧ 3 な 当き思報 立り (1 う 事にい 生は つ け 活って 3 者。出たな

# 川崎高弘観察日記小切的 0

割刊初期の四コマ漫画。

セ ン た タ (1 Τ lΞ 広。捉島 で 報うえ 働 7 < (1 とを 3 0 ולל 丸ま 悲な で し 負♯ け (I 組糸

ナ

の

目め

赤が

最き

近意

ഗ

誌し

は

読ょ

٨

で

(1

Q

<

立ら 7

لح

加か

が

ァ 増<sup>。</sup> え

7

(1

· ると 感

Ν

社が会から か

分为

()

が

年ねん

々なん

障点

の

害だい

者。な

自じの

ŋ 5 な ば 載の (1 申も せ 編â < 思な参えな 集調 7 訳 (1 長紫 ゔ゙ け <u>~</u> れ 岩な 皆さまに ば 4 (1 ٨ (1 の か 声ぇ ځ を 迷点 惑や ۳ 頼た を シ

長き良する ゖ 7 U が け 全水 7 ħ 地⁵ 7 (1 からも れ っ 点 の き を探え か 漢於 た ŧ な ŋ 字: (1 クオリ 賛ね か せ 0 否ぴ っ (1 た ル 創香 の たし Ţ (I) ピ 刊% テ 以い を 号音 1 見は 上岩 今 か 打⋾ 1 が 。 の 5 を あ 編â 7 上ぁ — ს 集 (1 貫カ゚げ

根ね

#### Q 0 1 刊 12 期 号 と最 近着

み

เฉ

ゖ

#### 広 比 1 3 É 感かの 想 は 0 号 を

う。 ところまで I 高。は 広臺 に 度ど 大點 報∜≪ 報き きく 並な 化如 誌に 誌し ŧ ٨ の の 進步変か で 形は )意匠(デ 来▫ わ 状紫 () 4 た 7 っ は 一らた。 変ゕ ŧ 般ば ザ 違い わ 書』カ イ 和ゎ 5 シ ラ 店え 感が な が ı 0 (1 ば 冊き化がが な 子いや 行いい 編ネ ₹ と  $\Box$ 見み 集。た 着っ思ま Т

創きた Ρ 2 0 刊なが 法質 0 企፥ 人化 刊が ~ เฮ 画がの 号 な 会が中なの る 議ぎ 企 TO 記 เฉ เฉ 画 あ は 憶べ 会か た 任流 残空 っ 意いる # 10 団だん 席 会於 体於 لخ U 員にか は 6 向むら P 41



できずし 表紙デザインの変遷。

ろう Q 3 لح か Ė 5 意い 広る (1 識は う、 < 刊允 L 公臺 **当**号 7 益き (1 の 的₹ **熱**物 な 意 広る を就し 報 力的 誌に を入い تا () に た ŧ な 和 の 3 を ょ う 創?

## 制版大學 誌を **I**b 指 1 た

発は 材流福流 私 ίΞ 信に 祉いな ŧ し た 力智 度ど (1 を ゃ لح 啓は 入い U <u>発</u>導 れ うことを話し合っ 記書 地⁵ 事じし 域龄 เこ lΞ 加於以 有ゥ え τ, 益き な 独ざ 報り自じ

取は

を Q 4 作 Ø **事**₹ K 9 B 3 と思う こう は KS う

にこ う つ U たが、独自取材で取材で取材で、 な、 7 だ (1 わ そうでどこ # ・ラリ つ 7 **を**光数 ΙŦ 材意材意 し るタ に אֿל 111 (1 เこ ŧ 7 力於 ₹ 載の イ を っ な 厶 入い 7 IJ (1 れ な 時に て、 期፥ な () 記書 が 事じよ 載の 続3?

#### 5 4 Di 外がい C **今**元 向® け Ć 0 期 待然

Q

皆な重な身みョ えるよ ス 近だ 様⇟ ta 広臺 タ 時にな の 報は無か ッ う 情影 場ば 誌し題だ 間な フ な 7 は 読。 を 報き 広喜 ŧ 地。当等 使る を ٨ 法雪 域₺ 報り で っ タ あ る。 誌□良ᢑ を 人じん 7 イ を 繋な の か 読』ム 1 目め っ IJ 福常 **(**" 額款 闪 ٨ た 祉し る ٣ ı  $\Box$ で لح 制はミ あ < に ŋ 7 ュ 思ま 掲ば度ど れ 載きや は ΙŦ つ 3 7 読ざ 人にケ し 利り し 権は 用も n ŧ 者は 1 貴\* や シ 者。 の

## 二章 C Ι L 中 30 周

# 部門代表に聞きましてん

Q いる意味と、当法人の理念は、当法人に「CIL」と名が 」と名が付 ?

# イズ&ガー ヹ

障; た ٨ 生たな 書が 障 活 立り 「立っ」 事に接え 主に 体\* 当 を 書が Iを 持∗ 送ることを目 でセン , 人 と 体に ターと の ŧ サ I 指₹ 地₅ Ł" n う 域は ス し 機፥ 7 7 意い 自じ関党 味料 (1 る。 。 立当 で

# 18 ーステーショ

出で 方ガ意い [Center for Independent Living] 味はど 来る社会の 直が であって 訳や はすると「自立生活センター ٨ ŧ な の実現を目指すも、地域で普及 重ぉ <u>(</u>1 障害を持 ず、 通乳 ์เี っ て とあ 自じ 立り 3. 生活 い る

で 生 活 : (1 ね ŧ 一い 見ば **た**、 の と捉えていた だと気づか し 「なるほど。 ている方が、 4 が、 れる。 親なった。 自じ 実 í 立当 をすること な 療場 か 養ったゆう な か深刻 院总

> を 5

เฉ と 述 が ഗ う 間はわ 「 地域 で 言 の れ ば 常い 普為 とても 普 通 識É 通3 ŧ ์ โ 変わる 今は亡きア (1 の 私 普》 の 通을



間事務所の入口。

でも 才 当ては 猪的 木彎 の まること 名的 言ば 7 あ だと思 3 が、 ي کي ۔ れ は 誰だれ

に

 $\vdash$ 

念ねん ? 持₺ し 当 事 ち、 군 で n ιţ 子 者 も れ 普為 生がきて な を 通とはどうい U 形た ル だろうか にすること いる。 パ I もそれぞれ その人の、 っ た が **当**⋚ ŧ 法』の 구 の 人にな 普遍 の の の 人と

# ステー ション

理ッか

を 障: **訪** 書が問た っ 当 看於 7 事じ護ご ( ) 者が運 る人もそうでな 営 主場体に Ł な ( ) り、 人と ŧ 障點 共き 害だ

> 業生 会於 誰於 活。出で 動養来書 を 3 公臺企 社は 平に画で 会於 ഗ 基地大的 常 実 ī 現ば 7 を、 な生活が出 (1 < 目め 指档 し 「来<sup>\*</sup> る た

# 務₺ 局

社ゃ

เฉ

な

る

ょ

j,

働に

き

か

け

3

活さ

動賞

ŧ

が

iving ŧ が 擁りの 運え 護士実生 営売 î 現地地 念t ↓ 味料 の え 目 指 主,関於 域は →Center 頭文字をとってCI する で 普<sup>s</sup> 体となって ど んな 事に ī 通 ζ, に 自 立 <sup>3</sup> 業 เฉ tor Independ 活営 重ぉ 行な 自じ 動賞 U : 5° を、 障が 活物 障 で を きる 及ま ŧ **当**불 ٦٢, lent 事に権は社に つ 者は利り会な人な

### 支 接着 センタ ĺ

る。  $\subset$ 談だ本に主は は 観み団だの ΙΞ は で 支・来は体に歴報 3 映 体だ 行赞援 支口 更や・ ということで、 کے С ウ つ 7 な I 授礼 事に運え チ 政党 委ぃ 託<sup>た</sup> って運 意味として言 しまうかも 動ぎ 業 す の لح 寸だん だからこそ当事 る 強記 距,所知 事。 体だ 4 離り 上刻 で **業** 営な 7 で 7 は ŧ する 所』 、この点 ŧ ŧ の 近ホ あ が 知し あ ή, 基፥ ぁ () 運え 3 えば 組ゃ れ る 本は 織書 な 動賞 が 委い 者 尚な 団だん を (I 託を な 考がが 客 か 目め け 体だ ウ С 当 え 観 つ Ŧ つ I 事じ え 7 運え 業 ίţ 7 的き を 者場 L 구 歪っに 動きな 相続は が



曹弥の室内。

ら役割を果たした < 持₺ っ て、 行ぎ 政共 Ł Ü し っ か ŋ 話は し な が

Q 2 なんだ」と実感する瞬 同じ事業所でも、 「ここはC ある? Ī

# .ボーイズ&ガールズ]

一人一人の個性を大切にするところ。

しく ŋ 7 内でどうする 明確にはないと思うが、ヘルパーステーション] げ 来▫ な 7 す上で必 n (1 < 場ば 合どうし か?ではなく、 姿勢がC 要なことが、 7 L U だと思う。 < 制問 、 そ 制t の か 度ど ? の を度と人と作り内であ ŧ 範は 囲い

> ŧ ŋ っ 現ば た 行う 部。現だの 分類場制 が の 度ど あ 声えも 3 を 反はそ 映るの ž 時 せ 々き 7 の 作? 要等 望 5 れ 7 つ

声を届ける役割があると思う。声があるのか?CILは、より 度を作ろうとした時、てきた。その時代にア そ 様。の な 医い での人の能が生まれ っ た 進光 療製 進化により、 機⇒ れ ŋ 器章 ŧ その時代にア 記を 家<sup>か</sup> で ħ 力 の ŧ スマホやさまざま 庭に 行き 動ぎ **範**ば 当事者の暮らし <u>デ</u> 病紫 現ば 院 使し 用り 化如 ไฉ 現ば 場ば デヤ 囲い אֿל できるよ し だけ ・スト 可か か より 多 ま からど 能す ~ な な ľ し เฉ か な 技<sup>\*</sup>う 術<sup>\*</sup>に なっ Ā た 制<sup>tt</sup> も 多<sub>た</sub> っ < の な た

ઠ્ C 見ば えを出し合い、 障が問え 交臺 (換を出来るところ。 という感覚になる。 L 日当事者と共に事業に看護ステーション としての 協議が出来たときは 方りを大きり 。それぞれ が 作られ つ () 7 が 7 考が 意い (I

いうところか 決す<mark>事</mark>に 定る**務**む 権は の 多ぉ < な。 が、 当 事に 者。 の 人心 เฉ あ

# [センター]

ア・ カウンセラー が ( ) るところ

> Q 3 Ł ピ アカン会議があるところ。 当時と現在 C,

# ボー イズ&ガールズ]

での心境・意識に変化はあ

特を に なし。

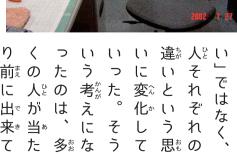
# パーステー ショ

衝<sup>し</sup>。な 撃<sup>げ</sup>く、 لح 福 国撃の毎日間後く、正直になるく、正直 健tz 常言 祉し 私た ー の 事<sup>を</sup>、 は 入にゆう 者という「差」 職以以 なが、 だった。今思えば、 障 害 能 前机 当等 入点 他た 者と 職長 を 種場 私た 時じの に は 関か 自じ 驚き 身は障害 わ た が書が者 きと ŋ 為な は

年月を重ねるにつれ、っていたからだと思う。 เこ 変ゕ わ ŋ ねるにつれ、 さらに 健は . 障 害 ぎ 差章 常 当りが 者㎏ 事に の 違が 者場

لح

人それぞ 建於 U () こでは เา っ เฉ . ك 変え 化如 な そ う れ し 思ま 7 の



た。 活き来きい ΙΞ 特にり が な は () に U 私 する 上<sup>え</sup> 3 頼た 3  $\mathcal{O}$ 7 は 性問 関が障は l. 7 だと、 っ き 事章 出で 叱ょ を 関か わ 壁き 7 ι‡ ħ 全となっての た。 7 来き 咤ႊ 知いわ ⊞で が意識の変化 すべて 生い 7 ŋ な < し っ 来 きてい 使いい つ た た が 7 U な 用がだ ま ŋ 上刻 深か つ の ٤ から 私だ ŋ で、 け ŧ 人と し 他 . る。 Ť 違が โ が เฉ で れ 0 らか思うようになる。それと変われ 今』 ま 得表 は U は U ば あ フ のように 作?る な は オ お 手で っ に 7 当ぁ لح れ 物。 < 万於 た 私 . と 変<sup>ゕ</sup> な た ŧ 1 っ (1 不亦 เこ (1 利9 我和 ŋ 関か し が 得えら 7 感% 物。用き 前素 相き手で と 々れ 係は た は تا な 5 が を を し ŋ 手⋷が 自じ大ぉ っ ح ا っ な 人な 生だ出で築を時をの # 7 あ 分が

# 護ステーショ

性が今かな

は

重

が で

解か

っ

か

っ

た

が

立をき

場ばた

今計

な

4 ス C Ł เฉ 前ば 訪! 提ぶ 1 サ 7 職。問意 7 L ō, Ł ピ れ 関か เฉ の 初じ の ス 事に を わ 感な め 提《業 認みと 5 価が 7 たのが 用まる ₫" 値⁵ を め 供業 所』 C 観☆ つ 違が を I の に寄り け、 ゃ L 時 つ す っ 入學 考が 協意 7 の る וב 職 存え え チ 働ぎ (1 ź 添₹ っ の 在ぎ は 1 するこ 7 うきっ 同なな を เこ 当ぁ たサ تا  $\triangle$ 知し 働た た ታነ の 利り っ ŋ 害だけ 一片用り 1 (1)7 員に 者に 前類の L"

> Ł 重 受∍ ιt し る 7 合うことが 側がれ のは 関か サ 係は ピ 性点 重点 ス ΙC 要がた。 を お 提品 () لح 7 供 感が تا ŧ す た 同な る تا 側が

# 局

た の 初』 で、 か ら 当 き 心心 境 事じ ゃ 者は 意い主婦 識と体だ 寸だん เฉ 変え 体た 化如 Ł 理り は 解於 な し (1) 7

# 夕

々き者は 立な事を僕を支い は援え 場はは は ) [] 個元をセ か な 人じん **々**もと 5 障毒 つ 動這事じ С 書がて 業をや I め 者は L **運え者**が 動きえ 始<sup>t</sup>め 豊富 っ 中なか て、 lΞ 方於 7 7 は は 今また。 は 関が変か 利り 心がわ 用き <u>寸</u>た が っ 利り 者は 強った。 用き で 管常者。 <

元セ理ッの

仕し

は つ U 一點出でた ŧ た 相音 7 5 くる 責制に à で 立た 場ば 員は 任に 7 だ Ł

> 変えなり な 化が研想視しか 修り点を つ てきた เこ を 行小 変ゕ え っ 僕 の た ること)が は か ŋ IJ な。 経は 験 レ き 1 積っ苦が ミン 手<sup>で</sup> だ ٨ だ 中<sup>なか</sup> ·グ (発<sup>導</sup> が

Q 4 は(それ以降どう変わ ターニングポイントとなっ た出で

# イズ&ガー

で さき I イズ&ガ 本に 再認識させら だけ 7 ・ルに異い な れ た。 動賞 家が に 族₹ な 支ぃ つ 援え た 0

Ł

重

## 述。ル 1 ステー ション

ŧ で 福蓉 (1 祉い前ば 3 は 、介がとして、一般では、一般では、一般では、一般である。 の /? そ 業 無む 故ぜ Ł お れ ń, . は 自 身 に 想 世世 の 界的 定に 前机 業 に 界 に に 職 の 7 (1 ま 入にゆき て、 ( ) 身科 ~ な を は か 転る つ 職 介於 た 護三 () の 7 際意

人に間な の ャ つ 症點 部~ l₹ 20 入時 ڐ (1 数すの 屋ゃ 院 初』で 年沈か 5 ž 前表 日ち す 通ぎ (1 私た生だいで 音き の ち で ベ 蹴りにす。休 よっ 外於初時 叫詩 ッ 休 75" の の ۳ 、 思 え と ż 入にゆう 声 柵き 全<sup>ぜ</sup>ん か 員以 院心 を た 怪<sup>+</sup> ば のな 便益 ガ が 岩な 如ぎん 処』 高素病紫 チ 4 7 齢な室って ٨ 認に者には ガ う 1 知がだ 6 週

玉裳 の ŧ 出で 中なか 砕き 部~ 屋ゃ あ ഗ 2 日信 る 移い 動ぎ 目め 化がが 7 の ŧ 晚。日 あ 耐 えら  $\neg$ 初』た た。 日』が れ لح あ な 同なっ か じけ っ 状紫 な た。 況続く

と か ไ () け 才 ٨ 入れられ ? ŋ 1 2 た 頭き の -カスが合っ、 ŧ の 自じ 日に 味料 ... 分<sup>党</sup> の ち 目め を 微圖 Ć. の 持₺ 中なか 7 日 写 変元 . 笑 ま あ は つ ÷ Ţ の 中, **(**'' た 機፥ 入にから ぐ つ な 院 出"介於会於 < が <del>न</del> 来き 護⋷ 眺 が זת 5 護∹ 事至 Ł ŋ な 80 ぁ ŧ 師に だ Ė 7 () け 軽は さ 眠<sup>2</sup> っ う (1 れ た 妙紫 ٨ ŧ ば、 る る か 自以内容 Ł な の ど 介が分がに ゃ 皆な lΞ う フ 護= が 受っり さ

僕∜の

を

が の

### 訪 問え 護∹ ステー シ

ŧ 障量 し 当 気き 害がか 事じ 持もサ 考; 当りな 者緣 ち 相続に کے U を Ł" 事じ 談している。 部ぶ こ ス 提び 者は 考がえ 分常 7 の があ 7 の 供 な そ 経は (1 がら 者ķ 員は 3 ŋ Ō 験は とし か 意い וֹל 5 実 見は 利りな ٢, 践 の አኘ 用す U 欲▫意い 分流 者は 7 見は 利り ď < は ŧ 想き () 用雪 لح 像ぎ る 者は あ る 7 の

# 局

(1 だ う 言』ろ 葉』う 自じか 体だ グ 知らなる ポ イ 以小 かっ 前が  $\vdash$ は は た 入り С 職 ı し L た

は が 受∍ 意い 実 教 を 元セめ 否がは援 け 色紫 態た 味み 育┆ ίţ 々を 々ら ち た を が 定话 養。セ لح 時事特 仕し 解かか す 取は < ŧ 徴き 事ぎ 学》夕 人<sup>で</sup> の 材ぎ ら を が 7 ス す 地₅ ゃ 解か 通을 顔ぉ ₹ 域影 タ る 感 嫌₩ تا っ 身ړ 色紫 記書 た の 情。 Ť, た。 だ で、 を 学的 ス 事じ の つ 親かが נכ 地が校う で た。 解なピ 1 あ 方』に ŧ っ は 放り ア ŧ 7 行いク 関か の カ な 何な n 生ぃ . 故ぜ لح 障點 わ < بال か 養さ きて なら (I) 講る っ 書が 1 っ 護三 う 座がた た 者もい 学が シ

う

ブ

が 校ラ



う き 7 Q 4 認に た た 識₺ 人に 5 し 間ば か Ċ 自じな 分類か 自じ が っ 分が 変ゕ た の わ か っ 50 情 Ш だ 隠さ け ۳ す Ł 受⋾ け

5 どういう方向 C でやっていきたい I L 中なか 職しまくいん

ゃ かに 個= 性的 を大切にしながら日かれて、 暮らせるような支援をし 々ぴ 楽だ た (1 穏だ

# ステー ショ

よう 入[15] な 4 3 護士当等 ŋ 7 職;時。一 5 (1 職場 社は ٨ 息もへ が と 取<sup>と</sup> 15 5 な た 員泣と を 長なル 有質 さ 人で 人な 倍ば 目め < 効ラ 比台 れ の ιţ り合うことに 倍点。 . 指\* の ~ ゃ 3 求聲 人でべ ところ、 **人**でとも、 っ 7 し 手で 近え 倍ば不ぶ介はた 7 1 他た **年**ねん 足を護づい (1 人に 率り l₹ が業が界が、アンド ر ات の ŧ 種。ほ ٤ 木 求きゅう か か になる。 ٨ 1 は 3 5 ٣ 職 他程 刻 צ  $\Delta$ 入は 介於 だ 者。 特 業 ΙΞ n が 護ご つ 当 に ル 法 が が パ เこ 種はな な 今 業 た っ 訪 (1 で ŧ 入にゆう **平**応 て 私 を し 問ね 人ん で 1 โฮ 介於 職 編 誦 の は 均続い

力 を め ることを目 指≉ し た (1

## 共動物 生態問念 社場看於 会於護士 ステー

を G 平分れ 発は 4 s 7 員\ **務**□ 揮電 С เฉ は き I あ 発きた し 3 が、 L . 展 7 て事業をなる を目が 社は 途 . 会 の まだ 上 **実**5 現ば ま 行な し だ 日<sup>に</sup> 人に 7 っ I เฉ لح 法間 7 寄≞ 本は 1 与出 し **律**% (1 ナ 社ゃ ₹ 7 I ŧ 会か た シ 来፥ 粋は Ċ ッ ż S 備で の (1 プ ょ D 公臺 さ

ŋ j 裏言 U 方だ 所に 古し サ お Ť Ì 互が 努ど Ľ" (1) 力 ス 助智 が し け 提ぶ 7 合ぁ 供輩 (1 (1 き 出でな た 来፥ が (1 きる 5 ょ ょ

## 支 援え セ ١

信に 働き 事じ団だん め れ と 者場 体たも か Li ビジ 7 自じと "ש ね っ 7 部談 لح の L 身に し 何能 U tz U ラネス化し か が 7 分常 か เา 「ビジネ 権はン る 産ゥ が な 動きの Á 利り夕 職 動? 薄章 H (1 (1 大點 С 擁ま 員に てきれる ٤ 出だ ŧ ŧ 護士 เこ . ス 化<sup>ゕ</sup> Ť っ < のこ 向₺ きた中なか 7 見\*\* せ 7 C わ 色岩 きて け 'n, 4 Ī ŋ を لح 7 なく L 濃= צ 5 では で、 (1 Ŋ 0 ٨ < る 7 צ Ĕ す ž 当 の С 務₺ 相音 な は 3 ٨ が は 事に I 談だ 当き 者を す 支した 薄す 発は

> う 味料 ル זת < lΞ す lΞ ゃ ア け 国台 さえ 3 ŧ で 3 当 点 点 泛 っ ル ታ፣ は 7 範は 事じ 強。 7 だ 処』 ゃ 定ta 囲い 固た < 者は け 運え (1 法質 (1 80 U 言い ₹ ŧ 動ぎ め ~ で る **律**% 3 の 以、法學 考える 体だ っ た れ あ 委、改称 意い 分剂 る 必 () 7 7 ば **律**% 善だん 味 노 الْمُ 託 あ 内に口 (1 ŧ เฉ เรุ 単ん 現ば 状態 る必。 でと 要はら ボ か 価が望っ 応た \$5, な ッ え が 低<sup>∞</sup>< ま 要があ し な | 無物 の (1 5 れ ピ 相等 <u>ج</u> لح る <u>(</u>) 3 れ 者は ジ 談だ (1 が ŧ る ٤ ネ 3 が 支レ け マ の (1 ころ 主。マ 구 援表 ス Ļ な U 業 体だ の เこ 理り (1 国ミ意い 7 対に所にで ュ 動きア 者もい

# 0 12 倡

Q

0

立り以い

I

念な非のセ な U 3 営 の ン 前ば 指し利りタ 身况 立 왕 針 차 活物 の 中なか 趣。は 私た 動紫 寸だん 法<sup>§</sup> と 人<sup>じ</sup> よ 旨し 体だ は 基≇ 書』ホ С な の 障 々き か I  $\Delta$ 書だ ペ L ñ. לל 者は H 豊島 Ι 自じ 返款 5 ジ 中なか <u>立</u>り เฉ 続る 7 生於 切賞 掲げの < 活。 載は基準 (1 な 本は特に 援え し 7 理。定る助は

> うと Ł きる た 7 す は 3 近たか 0 し は な け タ () あ きま 1 3 ち 年が施り場はて 3 視し 子=し 3 な ŧ は ŧ Ł เฉ 側が l₹ ども ズ 点和 設ち 0 制はな ル す た เฉ Ł 在にに 選# 経は 考於 限だ を 住, し 考が 5 に 7 が 障が Ā ち 宅で限ず択で福からす 験な える。 を超 応売 選ばむ え サ サ 미<sup>ま</sup>ゎ 扱き ば 害が いする余い ピ え、 択たか 5 ること 障毒 (1)当ま 祉 積っ あ えるも れ す の 書が 障 Ľ" さ 障 害 能 ŋ サー む機き 7 スを ス 者は れ ŧ 者均 0 の 裕等 か 権はか (1 思し で、 当等 の  $\mathcal{O}$ į を ・ビスが が せ る 会か ょ ŧ の 利りに Ł 事に 提派 自じ 自じ 持₺ ٨̈́ を う サ 7 な の が 住す 責₺ ょ 立っ か 者は 供 供 <u>立</u>り 多数 た < 自じ が 奪ば あ あ 任に な t) ŋ ٦ 生世見 し を が 7 Ł" < な 立り 現ば わ る 障 つ ΙΞ きる 生世障 スを れ た 運え れ 活き 直な 状紫 の () 7 家が ŧ を 営が活物 人だん 人を制き生き さ 族₹ 障場 は を 7 づ 提ぶ 7 機፥ の生は格な 支章 書が 主。が れ す な が 限が活き 供養私た 関沈え 下き活っと 7 0 7 5 ス

を 層を 充計 私た 実 た 化如 7 U け 障 3 書だ 社は ŧ 会於 7 の 0 抛ち 実 活き 域は 動賞 7 を 自じ を ょ 図はか 立ら 3 生は n 活き

事業規模の移り変わり(単位:円) 2004年 282,810,896 2008年 323,379,055 2012年 452,685,315 2017年 528,955,853 2021年 553,859,607

療製

ケア

が

な

重点

症點

児ヒ

の

生世

活き

という。 託を日で ツ の思うところを少し述と思う。ただ、各事業 さ 設め ٨ 相き 々で フ 現ばに 立り <u>(</u>)と健は たか会がいる ア 談だの 状誓 す 市障害者自立 Ź を 評 言 カウンセラ 業 定派 ゃ ・外出支援 大務を 行き 行き 非ひ か 常は の背線 党 者。 価が 7" 利り す 굼 あ 活き 援え 3 タ っ I Ą 支援を 7 ッ が の 法質 ( 障 s 主きい フ 所。地。は、 ^" 人に な が 書だ 乜 る。 เฮ 域は C 業 協き当さン の利し は つ П 務計以力學事。夕 **皆**森 用等 (1 L 者均 굴 lΞ 画~し 7 者場 て、 ゃ ス ത な の 中なか ٨ 私だだ 皆な 委い タ を

を

تا

7

地に

道紫

障量

の

**擁,実**ら

護㆓務₺

7

7

多た

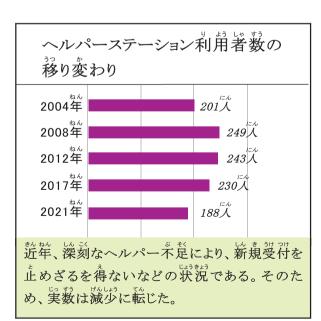
忙き

で

へ 訪 継ば重導障等門を 少セ不タね を なく 足でで 続₹ 度と書が 積っ通うい で 前だ 問も 身はル からニーズに あ 性点 ŧ 者は あ H it it 3 団だん 看が 3 な 见。 重かさ 7 、 の介 で に 地 で を 担 が 体だ 制制設装入 人材確保に苦戦 度と立りた 近着 拡ᡧ 年常に、地 が 時に 大すること 応えき な か 慢素道。担味輸 5 3 (1 3 性はな つ 者㎏ 時心必シン ン C I 的。努定て れ 代: 須\* C 力影 ₹ 軽は な な か の が Ι え の た 。 度点 L 5 ()  $\wedge$ 7 こと から 多な介が豊と 切り利りの ル 積っ (1)護ご中なか パ 4 < 中なか 3. וֹל 1 重なの 最意の 部※ 🗸

稀書訪言流音中等の 障が前が 医、术 **)**° 組< 問ねれ 連次書が身と 症點 で 児他た 看がだと む 訪り携は者もの 問たを 意い の すだん の 意識とスキー等の在宅生 自じ体に 訪。 & 在意 <u>立</u>り 時に 問も ガ 暖を開かり45年(実践-5年(実践-7年(実践-7年) 宅 代だ して 生世 必沙儿 **自**じ か 護= ル 活 5 要がズケイ 事に T i の ίΞ (1 生きた . る 生<sup>tt</sup> た 団<sup>tt</sup> 活<sup>th</sup> の 高たが ŧ 医い 所』 さ 7 医、療。 積りが セ が 体だ は ₹ あ が 極慧 消 は た。 療。 極。タ 自し ٤ 必 極對 的€ 介於 要等 I 然だそ に のの 護立な 取ヒな 7 7

職員・登録ヘルパー数の移り変わり 2004年 10 + 217 %2008年  $39 + 189 \tilde{\lambda}$ 2012年 66 + 185人 2017年 78+159人 2021年 86+122人 グラフ横の数字は、職員+登録ヘルパー。 業所の規模に応じて職員が増えた一方で、へ ルパーは制度誕生直後のブームをピークに減 少。直近ではコロナ禍の影響も受けている。



事じの 業 場ば 所』は 限が וֹל 年常中が地すら 域がれ 7 15 無なしい た。 か っ た 対だ か 応ぎ 5 で 7" き る あ 3

7 事じし ₹ U ž 開か業をた 7 で 児ヒ ٨ 所』 所は 今紫童紫 な し 11 זיל デ 7 批⁵で 良。 イ 域。は 前ぇ か # 医ぃ lΞ lΞ っ 1 馬区が 医ぃ 数す 療 ピ た け 療場 ケゕ 的₹ Z と 思。所是 ケ 的₹ を な 手▽ 7 ア ケ っ ħ ₹ 対た 探き ア 7 ば 応ぎ เฮ U ŋ Ł る。 頑が の で 対たい 張は民党開かた。 う っ 間が所はで 思ま

#### 0 Q 豊富 3 機き 30 障がなっ 年ねん 書がと 0 者をた生出 C 来 [ ] 活 Ĭ 支し Ē 接表 K K 事出 とつ 業 プ 5 開か 始しは 大おお 9 き 中なか な

7 事に市し 務む委い中が ₹ 新<sub>\*</sub> 話<sup>\*</sup> 市<sup>\*</sup> お 固= 定员 費ぃ を **賄**\* à 3 財ぎ 基፥ 盤ばん

O が 制は人は法 人比 格たた を **目又**は 中かなか 得 7 特 定 非中 営な 利り 活 動 法は

あ り、 度ĕ C 費が、が一し 体流置。豐富 度 か 0 格於約於 は lΞ 必 大だ 事比 須サ 変え 業 だ 革かる 開於 っ す 始し た。 る เฉ

業者 0 (1 し 規。及意障。支にた っ ーゥ (接え 書が 援え 模』び ŧ 福营 事に祉し 拡窄ル 祉し 業制 大だパ が 度본 指゚ル ŧ ŧ 7 が 定ぶパ 人な (1 大器事にし んど 幅讚業影 増シ เฮ ٨ 増タ゚な 7 加宀 ŋ 雑ぎれ 人に 化かと 利り し 並命 行き事は用き 7

に在意生が

で

な

ŧ

の

ഗ

C

理り の 力 が 必 要 เฮ な っ た

## $\circ$ 中な 町ま 重元な

代於 在於 代での 表。拠意 大點 点流 で 友₺ あ る 池沿 浙t に 移い 転ん し た。

導が 私た初は現ば世に U てく เこ とっ れ 7 た 唯 初』 一ら代だ 無む代話 ニ゠表。 は、 の 存む 在意こ で 0 あ 活さ 3 動營 lΞ

O Q 障害 4 は当事今輩 ッ 書が フ 当 事。た 聞き り前表 けば の 者は 有質 4 償 は の ボ 全ばん った習 y 収算 ラン 員は 入馬 無む Ú 給き テ す イ ア **健**は 常 的₹ 者 禄 な 1 a 安。 ス 初出

の

世ぜて

入り煙が活かいタ 草章 動的介於 介於自定資定護士 助な金を料すは 機⇒が の な 管カい 理りため し 7 街が U 頭き た。 募ぼ 金丸 ゃ

0

0 浴 ちろん は 介於 護三 同学者。 性は ŧ **介**於 助" <u>—</u>ს 緒』 เこ 入にゆう 浴

~ 介だて (1 う 護=し 7 (者) た(も 色。い が た (会: 強記 利り か 用; 員以 者を っ 制に下で た。 互"で 助』—』 団<sup>だ</sup> 緒』 体<sup>た</sup> に のうり 志に を Ł 食₺

0

Q 5 必ず 活な あ C る が っ I 将 で 7 L 全点 き ŧ 豐美米常 7 社。域。は の 大震 活物 会か 7 切り動りの生い 実らき ゃ ٨ 現ば生い 事じ ₹ な 業 メッ 重り لح は 0 自世 度ど た そ かりの の 80 目もに し 障量 的を存えた 書がを

> 3 齢れ の 形<sup>\*</sup> L 者。私於方於拠。作《豊富 の 点紅 5 ŧ 中なか 地⁵と れ は 域ボ た つ 生点 لح 7 長が の 活さ 言い 間♯ 年ねん を ż ഗ เอ # 3 来፥ 努芒 か ポ 年ねん 力 1 限が ഗ 1 れ ŋ 結は か 障量 重き た 果如 5 書がも ね U と が 地₅ し 高 あ 域は

代だ < 特々 職を中な の れ 徵 員には に ٢ 育い 3 7 近タい 成業と 力於 あ 次ヒづ เฉ 信点 を ŋ 世せい تا ŧ 合ぁ 代だて 力% 7 力於 わ 0 () を (1 せ の 障點 3 る。 。 尽っ 源は 7 書が < 当 将 歸訛 7 C し 事に 来きを 創? の た 者。の た つ L U が C め 7 の **健**は Т 最恋 の (1 大荒常 次に つ

者は豊ま

Ж Ж Ж Ж **※** 

**※** 

り、 7 7 見灯で 7 U ま は 以小 ٨ の し は (1 (1 た。 ٣ 有朝 ŧ 上 す 難だ 多お す 厚り 全ばん う < 長が 今克助等 ござ 員に の U す 御が時じの け 方た 回か れ 特 ŧ が 礼机 間如名如 5 (1 เฉ  $\mathcal{O}$ 集 申りを前り取り特に ħ せ ŧ に 広う ڔ؞ 割さは 材ぎ 報き お た。 初問 記 (1 に 作 周。誌に 付っ 7 載き め 成点 て は き ŧ 下だ 出で ŋ 常温 協 来き ΙΞ 完% 合ぁ ð か さ ΙΞ 力 当ぁ 人り っ 7 成点 5 実らい た の 頂 の を 下於 U 感な 意、力於 き 皆なな つ 見艹

担だげ 当 根和

知い介は援え回れな で さ h ま ず う 0 W 豊ま 4 4 市りがち かか 制はら W 始じ 度とに ま  $\mathcal{O}$ 0 0 制はい た て、 度ど を 通

談だル そ え る れ 制ま とす 中な派は障害由等体を制まん が 度とし う 市・遺な客がに 的量度とで  $\mathcal{O}$ セ 字にす 調がに をのよ 12 で るの 利り移い行業あ は、 タ 整はな 1)  $\mathcal{O}$ T る 如豆 等もり 保頃 ま を、 見いひ l کے 所に 童ぎ 各なた。 援え き では 1 り 支い相き行き属を 诵3 0 くは原見 体にの で 学☆ す 地ち ま ル 通調 域はそ が せ ガイ パ を ハーが付った  $\mathcal{O}$ 学が 支ぃ  $\lambda$ 則を  $\mathcal{O}$ B 通る障がて が で K お 援え 当等学で客だそ 通3 困え仕し L す ^ き添き た。 ル 支し者もの 難為事 る パ 援え相きへ 等等 を لح

> 0 VI

を 受<sup>†</sup>市<sup>L</sup>ら 5, 画なド まか す。 書よへ 5 `。 ジ 家\*ん 本に け 役\* をル 人志 作さパ た 所は コ 通。成於一 族₹な  $\mathcal{O}$ カン ] 希や通  $\mathcal{O}$ 5 ハーティック 新記記 一支に流流整は を接続をます 調。望。学。学 校覧 申ね れに る L 請は を 行る通りも た が な あ 1) 況彙の 0 ま 通う応きを カコ 聞\* 聞\* 学だ U 支いて لح き き ず 援えガ な 取上本是連門 計はイ が 1) 人に絡え

で

0

え、 ちろ で、 か必ら が ŧ を 要なへ 本意通3? 本人・家族 理学支援は ・」と言え、 N 七 実 そ = 現  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 都っタ 通るを ル 学がす パ 時を度とり 学が目が族がは ば、 支い指 本はン 合す人にグ 援えす そうで のや計はこ気を更多画なと 校 人机 調がとい の • 通う持も新な書はが うの 福 希 す はあ 学ちをを目を祉 望 Ź で は を重整に的質 す だ り うる 確なね出って け ま  $\neg$ 緒』 を 通せ す 認にま 通言 L  $\mathcal{O}$ 0 に 学だに 考於 た ŧ L す 考 後きも え なの  $\mathcal{O}$ 

現だは

は

だと

VI

ま

す。

ガばらが

< V) ガ ま 1 K ^ う点に そ ル ノペ で 1 は  $\mathcal{O}$ ル 面が で VI が え 見\*\* ば つ 課か か 題だ IJ to あ

事じのた 1 通るな 目き前だも 通言い 学がい 的を述るな 業が利りへ K  $\bigcirc$ す 所は用まル で Ś, 課が制じへ で  $\mathcal{O}$ 0 は  $\mathcal{O}$ きる てし 良。題に度とル 通點 どう で は に لح パ を り、 あ な は 探がな 、通学支 かをみんなで考えま 要<sup>かなめ</sup>に ] L 利り が れ 0 VI L 四学支援 が 0 ば 用も 7 見み 7 7 で、 な 付っ もし で 0 き添うとい そ き 調きま り カン L É の中でどうす ŧ な 早青 は 1) 整まい れ ちろ す 1 ま 朝智  $\sim$ が ま ル ので、 とい < B う せ N パ 夕き うこ うこと 見み < 時じ方だ す 調な 間なと  $\sim$ つル が カコ 整さ n カュ 帯にい

に

は をのん 新紫状紫 切り制じで う 度ど L で 5 V 11 す 0 ま た  $\mathcal{O}$ VI 課が制じ 題だ度と思い で 今えす に な t 後ニ だ 始に積まけ ょ ま 極に 1) 0 的き 良ょた に ば 取と中な 市い 発きか り 展だり 組くに

デ

1

少りネ

路山

通。害然

学を者とが

援ネ談ガい

に支いま

関が接えす

て

人に

 $\mathcal{O}$ 

す

学が

を は

4

 $\lambda$ 

え

制きる

で

あ

1)

す

が

度と通う

望』が

きま

わ セ

5

る

担な 大ぉ 岩岩

#### 中なか 市 庄等 内想 西に 町まち 1 丁ちょう 目的

S

a

b

O

t

1

0

8 9

7-0

0

を れ ボ 内な旅な t な 駅を・豊ま 7 お 前え第だ中な 店費 お V おの3の と 話を 訪な就り弾だユ  $\mathcal{O}$ をう 中なり ね 労は ニ L 斜米は 意いま カ 続き昨きク 当場が が 支に年ねな  $\mathcal{O}$ の日は 援着才 事に な В は 看な ま 社。黙さ 板は最き型がプ 所は 長まなく の終 を 大き作 お 的 ţ a 討な た ね b 山業業や 庄覧る サ О

36 歳き定るの 用す 員的一點 で す 20 日をは 名の何意 1 中等流流 人に 日を登まれ 8 録きを 5 18 教t 10 名 たえ な 方かた  $\mathcal{O}$ 々がた 方窄平分だ で が均えさ す 利り年ないか 用き齢れ

は

Α

Q

人でさ 的をれ た方々です。 にんのて 方だい かかされた ここの ・ます。 身~精\* チラシカなり ・全員豊は 神に  $\mathcal{O}$ 作・商・業・の朝き豊までも方を大きの内で日で10中等直で見った。 市接りて歓流在意見は計は迎ば の確な人りの住場学で画なで 前を認定の朝をのに相きす にしと礼む方を来こ談だ

らの皆\*知\*さ

出たましず り の て作る。質素の朝き豊ま 開かを容すの … 始。店費を一覧30

わくワーク

了。り、帰き15 宅 30



Q 車 る

В 型於通常

 $\mathcal{O}$ 

業さ

0

カン

事じて

す。

等新利明

で用り

Z

は

版急庄内駅前の音大通りに面した最終



た 験だて をネ 12 る 的誓 増<sup>s</sup> え 5 が 経はイ  $\mathcal{O}$ 営むリ が サ あ 思がサ てく ス ボ る 栽きい 1 0 ボ テ 7  $\mathcal{O}$ た 培はと テ で、 で れ 0 す て、 聞きを な ま 親ポが で自じそ す 5 失りき 会がき社よっ 0) 自じ 敗ば 挑きる れ 信は 信は手でし を間まま カコ 戦だに を で け 障がわれた ネ 0 障量 は X け 1 ま 植 の戻りけ が て ある ŧ た。 サ サ ず をル 育を最高 私 5 口 え人を経ばっ終っこ 7

私た 大ぉ 山<sub>\*</sub> が

みなさん広々としたスペースで、静かに 集中して作業に取組んでいます。

ょ に

う

家がし

具ぐた

調を観念

の葉

着。植物

生は物質

板ばを

ビ掛か

力 け

ク で

べ

壁だ

き

る

6

植

栽き

Q ´ます きる 切き使ゐ ます る う 現ば 作 لح 在ぎ コ 思業業 カコ ツ を、 作すっ 1 業 P は В オリ とも をどん 型だ ア  $\bigcirc$ ル ジ き 作さミ ナ 業計 なことをされ 0 ル کے カコ 1 商場 け L ル 品が を で 7 す。 は 確な小き あ 保ょさ

Q

ま

で

7

<

で

仕い強いも 1 職,用,合,A り 回な的を者をや 植え替か لح 豊なさ 0 ま 通氣弱素 す。 中な軽けん 市に作さに 4 ŧ 一些内能業 ン . え、 を 5 7 نا 🗎  $\mathcal{O}$ 人りの IJ 0 剪點鉢點 ピ 分が 障場 で 定にに ル ŧ ナ 害だ イ 清ば 分ゎり 植ゥ ル ル 6 カコ  $\mathcal{O}$ 掃音 水ず え لح  $\mathcal{O}$ 0 利りに 干 0 B 替が 自じて 下た 品がツ 7 え 用き行い 1) 準点 分常 ŧ 者もか る を 5 さ れ 士き る。をの方に週間内に利り配は を 好すい W  $\emptyset$ き

Q<sub>.</sub>

0

接點

点 **泛** 

交响

流り

11

う

で

意い識を

Z

7

ること

は

あ

1)

7

 $\mathcal{O}$ 

で

 $\vdash$ 

神に A

利り阪が店だれ

用的経統翻譯

済だが

0

お

n

 $\mathcal{O}$ 

出。庄美

店を内に

W

に

接點





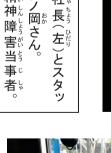
A り た 5 方於珍勢 す 社はに 方だに ŧ サ カン 商 注意い ボ アッ 12 L 日かん 作さ は 文意の 7 は | 業点 こう ブも z 500 V で、 どう 専だ 円えま れ 門も L 加加 す ま 賃え É ず。 7 算えが 店には ツ 0 1 す 工ラ 1 7 ま Ś 賃え で す。 うと全 販は な 6 部ぶ は、 関な 売ば 位 清ば 掃き時に です に給 国を れ そ 行い150 九寶 的き カン 7 人をか 円を州等に

なれかのも



共に精神障害当p フの紀/岡さん。 大ぉ 山常 社場 事じ







後ご ま 0 サボ さら 7 け ば VI な サ ま テ る す。 願なが ボ オ テ 0 0 IJ  $\mathcal{O}$ 業 ま ナ が す。 ル を メ 商も ろ 1 Ś 品が に ろ に で L な 作 成だ

今ぇし

担だ 当 🕹 たっ た

こんにちは!このコーナーでは、俳句・川柳・コラム・自立生活 ・ 大喜利・写真で大喜利など、みなさんからの投稿作品をご紹介しています。 今回もたくさんの投稿作品が集まりました。 投稿して質いたみなさま、本当にありがとうございました。 各カテゴリで一番面白かった作品には「☆」が!?

※全ての作品をご紹介できない場合がございます。あらかじめご了承下さい。

柳

ハイ!チーズ

あ!

忘れれ

τ

た

お

ば

ち

B

 $\mathcal{O}$ 

ダ を

?

声だい

がか

割りけ

ソフ

んなだ風物があさ

腰にい

追ぉ

# 歌

短點 俳

何

シートヨ 1

完然 な 佇 まい なり

路。 線

休 止 の 表 示 ある

ス

の

五十 進 路なりけ 歩 ゼ 口 な り n

え

ま す

? (

1

ま

せ

ん

!

きっぷ

を

通點

L

7

ŧ

6

大ぉ

声ミす

は今

年

の

頃

より

当 事に 者は В さ ん

t

れ

直でであ

絶まま

壁でで

頭靠頭が

が大きと

左きにジ

右等守事掛

にらけ

7

< れ

でをかってで表する

ŋ

あ

げ

ると、

لح

ても た

変われ ば 吹 公雪なり

日·

和

日で付げ

常 夏なっ 0 島輩

さん

ば

た。

「こっちで改む

札き

を

開ぁ

け

て

お

き

ま

す

カコ

駅員室、

か

6

ア

力

め

け

た

面も

長が

が

首號

を

伸の

シー F  $\exists$ 

ら、

そのまま出

7

くだ }

ヒ コ ボシ さん

モグラたたきか

日が替が

わりか

忘<sup>‡</sup> れも

主。 役<sup>\*</sup> 口 ボ って入れった。 ところが、

「このコオ、

ウ

Ŧ

0

近え

所貨

で

ょ

お

見艹

カン

(定食屋 さん

が

け あ ここまで駅間では、電動車い わ せ 7 カコ が V んでい 真にん す 対だ  $\mathcal{O}$ 応ぎ L る。 だ ジ 0 掛か た

け

に ば

目がち

線がや

をん

お

グリ À ックリにして は 身み  $\mathcal{O}$ 

ズ

まさどの一日

シートヨ3

っぽ今にて に 度どる にふのなのに A 強うり気き猫き?い ダ B な で ば には、だやん、は、だや、 だっ  $\lambda$ につす ちぷば よはや うど カン だ 0 いにた 持も

がよ黙囂 き行いる。にな < 情が切き持なお るち に さ 1 せ はケガをさせ. トゲトゲにな レたりするリス ケガをさせた<sup>5</sup> な 0 ス り ク

人と とは平かけ 交が午ご V 0 て ŧ, ち 6 ほ 5

ら、 めり やぼ す 4 ź は 2 を深かと き きないできない。それないできないできない。 ノ ラ 見\* しながいマネ さ れ らて は た かで り 言らき 葉は、な \$ を聴きいす まき る と取と カン

す 大だ。 丈芸 夫ぶ で す。 よく あ る لح な W で

発は け で Ę, か 口を 0 元₺ が \_ わ ば 0 て、 う ま

ん 格\* き 込まお音なだし 0 みば ば はちゃ かおて ちい らカる Þ ネ ょ W W 安東取とやん は 車を 心なる ょ い 痛ヒ^ て Š た す ないル ち 7 パーパー よう バ 一け内記 力 だなもさて側が こせんきを とえのたの おはへ資い。 ぞ

> うば る 5 B W いは つ≪ い頑然 張ば おっ 節まて 介ない をる や人な **き** ₩ たに く出で な漕

自じに しかルにりつよ 矢がのねつ て鼻はい印えるま はばんに か 猎 れ向な けで 7 太常まばいて声彩 もみちたかは らつ Š 自じや 問がき

ン「「落\*握\*くヤおこそとりよ とりよう答称いんと い先輩し たをは変え つ目がめら ぷでた をつお もな P のがん 上きらの に 5

あ

リあとをまとれれたのなりなりなりなりない。 た大きついないねゃ 指でつの「 先輩た 言詞 でき葉は 丁ょっ が 寧なる重な にはな 伸のひっ ばろた さいあ れ上がと、 てげった

ムよンん「改れシ 照でジね バ、あ札り、 れナ 隱\*◇ じゃい ・って、 でに、 大いた。 じゃ  $\mathcal{O}$ な シ 夫※ ・ない カン B か、刈り クチも  $\lambda$ ッとし っン XII m て、 なな あ 1) 横きあっ 上がた  $\Rightarrow$ お直き顔が 。んな感覚がお 頭よじしてば をね穴なた≪ち な」のんガや

0  $\Rightarrow$ そ あ れ W た。 カュ 0 《ウチ て、 0 2 7 言いれ

わか

でC

特ધ I

集<sup>t</sup> L

での

W

0

ま

ねっがテわっ 7 7 わ 2 りはった た 3 2 11 で L 才きた で は 逢\*でや ょ フ いしけ IJ よどな。、ん た ] カコ  $\lambda$ ょ っそ 若タか ! た OV じ な う ころに、れし Þ あ L カコ ま ぼ < 0 た くモ た

に 応 か 軽 ! にりすく 追れむ片だ わく街季で と、冷をあ 駅き て げて て、 真ない はっス のた。 ギ り 花が 粉ᇵ L 上 黄素  $\mathcal{O}$ 砂さ

海流 帰き 優ま 人と さん〉

対だ

れ

7

## どん り の V とりごと

んへ ( 御\*) 今= でん (年を年はは 当まてのすなど60の一 うい冬か 時:30 広まね ] か周。報。を記し くも。 ら年は読しあ化かまつ厳語な 関なともはとし にし々な ははよない様 う。 9 で お 7 す元ば きね んほ 気き な豊い ま なん で المح 中が もまし ものにた。 W ょ だあ ぐ う す前だ つき ŋ が身が カン 、が たま ( ?

楽なの込ままきっでげ 中なみ体に上まて 中等私たし Š で子ども をとな 0 げ 1 7 ほ やってこれま ることを夢見 7 そ W ってやっていこうと た じ  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 当き少まだ 7 を産み、 け ま は l らした。 た。 重賞協賞 子= 育を L 私だ 私た な 7 自い達な生は障がた ŧ 明か身にう 自じ活き害だつ 1/1.t= も 意りをを を 気\* 、 築芽持 るく そ 築静寺り

> き 7  $\mathcal{O}$ きま た ! 方だ N L 人をか た 0 カコ 5 障害がいます。 1) が Ĺ あ <u>:</u> ك ŋ 運ネ W 動賞 た う 何だに う . 7 声記言の命ない が う を る 聞きて カコ  $\lambda$ け  $\mathcal{O}$ て 上記

気\*す。 込<sup>=</sup>。 す VI さ L こく生いた 4 だか う. n あ いをもう一字 7 と らこそ、 きた な は 1  $\mathcal{O}$ 12 て た 自じい 工〈 0 と情報であっている。 重賞 立, j o 度ど 12 L 今は L B 1 頃刻 す 0 収算 公言 感な 7 < 集資源 的でも な ŧ 介於地方 カン 張ばて 0 護ご城き るの 1 あ 7 た い保ほで り 5 意いま で る 障量人學

が 5

り あ 頑が夢ぬ G 1 ک 張は生いん Ο り 車 とや、 ŧ る旅ぱき 12 す。  $\mathcal{O}$ 行うて t す 行い で \*考え で で 負まし す。 す き き お なけ 先輩けて て な ば そこ そし お 11 楽なな れ لح り ち て、 る ば に ま 書か Þ < な 0 す き な ん 明\*の 6 ま ま るく だ な げ カン 私だ L 目め 1 ま る . こと 指さ生いと のた だ た  $\Diamond$ 頑が L 今輩け

カン な

+

時にポ

内なト

でし

ŧ

5

0

たら

難がい

張ばが

間が

伝え 7

えることの

さ。 W に

\$ 7

で

W

5

L

V

ほ

سلح

で

き

にの

自 t 素 f 分 ž 睛 t t

11

لح

ば ま

カュ せ は

り

パでで

きな

た

<

な

ず。

0

に

今 り の

私だ

はだ

な若な

も自じとけ

己= も

己= あ

自じる

근,=

感な定にも

す

る

 $\mathcal{O}$ 

を

8

لح 決は

> 多ぉ L 11 11

は対き択たき

今輩意いす

どんぐり さん〉

投<sup>き</sup> C 稿章 Ι 作《 L 品が豊か を中な 歌,募籍通 集號信品 で は、み 7 お ŋ な ま さ す W カコ 6  $\mathcal{O}$ 

### 川着俳問 柳草句《 短点

コ ラ A

4 1 y 0 生。0 字に活か字に カン 6 8 0 0 字に

自じ か ポ 6

8

0

0

字比

大\* 4 利,0

おう ぼ

人だた き 生だわ く

6

は年をとってい

き

ま

す  $\bigcirc$ 

0

な

で私は手・で私は手・

ま

ず。

そい

平命生まわ

元が均をと

気がにこなった。

がに普通の人の60だはこんなものでした

代だ

ま

よう

道紫

記きが

書か

11

てきた「えりと

7

7

 $\mathcal{O}$ 

です

0

か大き珍な

0

**必**いまか 要まの 要事 事這法 FAX、メー ル 1 た ④ 絡さけ 投き先きま 0 す 11 ず

ド \* 住 ス 所』 は 電が ま編えん しゅう 。 3 名 ボ 流 ボ F 後言 記<sup>\*</sup> A 募ほ Χ 番点番点 のペ 号。連れ 号音 ジ メ 参え 稿章 照まル 内ない T

Twitter てください。【アカウント】@ciltoyonaka 才 日 1 口 日 となります。)を付 で 0 募番号〕※俳句の場合はでいただき、ハッシュタ 中なか け · の ア ツイ カウン 1 #シ

# 載

# ジェ

気き

付っ

当き

日ら

産え

七

V

+

ょ

1)

車負担な

ク

を

乗の

せ

る

が

で コ

き

本を 香 織り

雅き

L t 示に年だし ょ さ 見み  $\mathcal{O}$ 父を う れ バ 7 لَ IJ ほ る 1  $\mathcal{O}$ T 思ま車は フ لح 種は VI 0 担たリ  $\mathcal{O}$ 7 に 当き ] VI 0 者は展え る 一当が に て 緒は来くジ لح は を に る 彐 目ら 行いの 1 伝え産え < え 力 セ ] V 父きが そ ナ に展えのに

の言い重なっ は < L 7 大輩ま 大輩れ ゛け 私を原だナ 勢はい ス き ま す 阪はし 切き運える そ  $\sim$ い 転や向ぐ す L 南たた 0 車がに  $\mathcal{O}$ 負⇟ 車種を ~ 否なか 港ラ け で きな L P ジ  $\mathcal{O}$ わ VY ず 0 が ま る ま 日 イ 7 思。此 書い 0 ン L 1 請ら VI 車を 父ま た。 0 テ ! 力  $\mathcal{O}$ 11 た  $\otimes$ は 7 が 1 ツ デ 0 話に日を特や で 返款 ま 12 な 父きが ク 力 ŧ が産業徴 L が展える す 進ませ を担だぎ 担た示に大器 W 説が当まる 0 4 思ま V な当まさ 仮が ま る ナ い目がな 明 常 者 に!! 12 大業者はれ  $\mathcal{O}$ 到的 !! L 産ネい き をる は 車をして 着智 一なせの 父をと な 見ッブ

> のがが 車なった にが す 7 タ 人と勢を近なを後この デ V を た 教が運えト 力 F VY で VY づ 見#日ミシ そう す 勢き に 転で な 談流工 ょ VI え ぎ ク 父を VI 席⇟ 11 < 7 7 バ タ リさ لح る で で 方。 <  $\mathcal{O}$ 近か IJ を ジ لح 話な す が る 行い 6 づ アフ 0 言。 ご れ 日 11 0 0 V そし 案が たあ た たそうで 1 0 を 7 11 て IJ て否った 時緣 な 力 見み た れ あ  $\mathcal{O}$ ] る て 5 5 展えま لح に 定に 私だ す لح に L L 父を改む VI あ た。 造っと う 強売 ジ 7 0 0 カコ 5 き 父を 面を担たヨ カン で 思ま た で、 当きイ き  $\bigcirc$ 1 車 あ 0 人と者に力 る 0 日

> > $\mathcal{O}$

入り父をは 担たン 工 に 当き夕 ン す 提びツ を る タ ŧ 案が 父を購るに さ ま 入り決き لح لح L れ 12 同なし 8 た。 た U 7 る L シ ま 人とい 直。 エ L ま で 前ば ン 話し た。 に タ た を 父を で 私た決き 進すの ŧ 同なが 8 車拿て 7 ľ 私だ シ

のエシ購

く **後**= こ 7 席\*乗のれ 日まと た 談だに 0 乗。て 時齡 父を り 7  $\mathcal{O}$ 込= ろ 父ま 車。 が W だ 同な 様まと 子す言いメ シ をわ 工 兄きれ シ ン を がた タ 不がの据記 思いでむ が た 納%

運えめ 車を

説ま一いと 落ぉぎ 7 明は緒は言い 言いた う 車を 5 お 7 前類に う 12 0 カン てき 5 け 7 働に が見み は · わえ < 兄き 運えて 7 乗の VI た。 「転ない 私た席また が 11 れ 5 7 た。 7 た VI W そ もに V で 時も る カン き た 車乗のそ  $\mathcal{O}$ 事じ  $\mathcal{O}$ 6  $\mathcal{O}$ 後でるわ タ のる L 兄を務む 直。 な 13 わ 運ね 7 量が父をけ 後ニコ  $\mathcal{O}$ 転ん 私 顔ポが 兄<sup>き</sup>が B な す がほ が る 父をい 兄を 驚き詳さ لح ょ ぼ P 言いが 台
お
ほ き 細き兄れる 0 すを لح 0 7 詞タ前タぼ 何能



に 前がの お 回か対が作 伝記 た 年程 ごどり え は日気  $\mathcal{O}$ L 審え 夏% た。 着っ参え 査さ に い加か ジ 参え 7 1 ユ 加。 準にた ネー L 備が経ば てきたウ 万ぱ緯い ブ 端だ で 開い カュ 工 ユ n ダ た で ま Ì 国を す で ブ i車ね

す ラ 直なフ 障りのら ジ ハスラス 1 害が中がれ ユ ン を 者もの 7 ネ L グ 権は市いい 、ラと で3 て を 利り民なた 事に委い社は発は しい 2 分だ精味 た 前だ 員 x 会 な 言だ で、 魂 ま か に 18 の 者 \*\* 日ま 目め 百ゃ名の一ヶ席輩 込ら、 議ぎ 8 回なに員はへ 場 0 自じ以い対にと 分が上まし L 日に 入ば 聞きの 目がて 本は り き 中發通點  $\mathcal{O}$ しブ 取とで 国 〒10 割り は 読』リ 連た団だり (Y ス 4 B の体振

1

、うよ

らうな

事をお伝え

で

き

た。

n

言だら

通 知ち を 撤る 口が 上。は さ 進す せ むしょ るよう 方質 だ。 な 勧な 特等等 別s を 学出 級電し

夜㌔

40 排は障等すでて 年於除等等 事是週間  $\mathcal{O}$ 一片半点雕り を 普。方质分常教育 通?的疑以、育饮 児じ 学がに 7 を 級意決意 過, かめ . る。 6

> に過す た を な い で な な な か び、 7 行 きたが、文科 0 共ŧ 7 から、 る。 12 き 事を 成また は 長意 すべての<sup>1</sup> 大ぉ 大切り する 阪ま 児亡 B が 出意豐富 는 \_; を中に 子: L 緒は ども 大たで た 通。切りは 成は知がに た 長がに 5 が L は 実り緒は 7 <u>―</u>り 戸と践に 緒にき 惑むし

来きり 日に育りラ そ 取と本版団だス の体が力 り 後ご ミッシ が障がに ス さん 出で害然乗の 障が 0 来\* 児じ かって 日 는 \_\_y 教 日者権利委員の 7 困事育 ク 緒は に り IJ 口 に行った。 事詞 お テ。 ピ を伝えて VI ] った、 会於 活き え 副常  $\mathcal{O}$ 動ぎ 動を行い、他の世界を行い、他の世界を行い る 課か 事是題問 がの出でや V, 教もの

フ は、 1 シ 学が グ  $\bigcirc$ 6 識も 0) 話はの  $\mathcal{O}$ 答話 質ら発き L 人是 元言に対する人やら弁護 える 合が問が にどう 11 カゝ . を 綿 行。 答える わ 土し 権なら れ え て 利り 委ぃ 誰だい < 員はブ が カン Fi カン IJ

翌々日のブリーフィングで返ジュネーブ3日目。この日は

を。 返鷙 あ 日に言えて 葉は一と問え L カコ 本は 書か 収ま غ を目をに W いまって良い 11 削ず中等 B て L 0 通 り 0 読ょ 7 غ 知ち 発き W り り は 言ば で計場を ٦ 口かい ŧ 縮詩時に 回か L  $\otimes$ 間な 0 作 な た で は 1) がが ŋ 1 を、 含さら を 分常 何なん ま な 十点 Z 回れれ 分和  $\mathcal{O}$ で た け に 繰く文また 更讀 m

で

0

し お ネ 込 手 ラ う、 ズ 5 ح なみに 頃ぇル 父きマ 親<sup>ま</sup>カ W な ウ 価\*分 ŋ 口  $\mathcal{O}$ 部^ ٤ 格な 言いニ Ì 屋\* な とパ タ での食 VI ザ  $\mathcal{O}$ 0 で、 旅』 け ン ょ 行詞 を 赤と白い 1) を 事に 者。 ŧ 鵜ゥ齧セ は ワ 呑の 0 7 1 4 シ お 並ら A 0 け لح L 方質 と チ 流流が

事がの 人』ら 12 生は会か 感沈れ ユ 7 な 前が議ぎ 1) 最きま 1 ス 期こで 12 滞たに何き 4 乗の在は住すも な 日ち 先輩ん Ŋ な 換かかで 0 VI らた た え 日で け 鉄系家業 15  $\mathcal{O}$ 分流道等へ チ 日で で 朝きヤ は 映る日に 1 カン 唯忠 画が本は時じら プ の人に間な行いり 夕き 方だ 中な二を揺っく

12 ょ の通り でじ うの ょ 上人 昼なで 知ち 「ここに来き と 遅<sup>\*</sup> うに V 彐  $\mathcal{O}$ 下さい 何きが 撤る る が か実 は 流流れ がれて会議にする 確認にする ででいる。 ででは、 ででいる。 ででいる。 ででいる。 では、 ででいる。 できながら、 できながら、 できながら、 できながら、 できながら、 できながら、 できながら、 できながら、 できない。 唱を回か り 不。際問 終お 1Z を 思いに 動なた。は滞た議告を理。戻を在まで。 わ 滞於議\*生於 らに 先聲 0 な 由雪 入れっ 戻りあ て を、 カュ 送款 は 観覧さて る げ 5 ス 0 て、 事をる 会於夕 7 光章 翌また日まし 事記じ 上 議\*ル う —გ B 連ねを た 息がた。 لح な 絡さす カコ 質り 呪がい لح で が る な 3 疑がち 文も あ  $\mathcal{O}$ 感が思い

えて をに を サ L  $\mathcal{O}$ グ 行。対たを 出だ 才 7 質5 2 ユ さ 入りうし 終 L 終 通3 間t 日ち • 了影 了。 7 所は建はて W を 知がに 目め 通っに 役\*を 施設等条款 返ネの 終ま割り撤る答り各番かと回ばをを と伝えを 設等的等項。星點 5 下፥ なが日にち か対に ピ させ ら話が従続 え を 撤っ 活っ で 動き ] L 1 て、 も 1 つ 7 分常団だ < るよ ず体は朝雪 桜。回れた 政問 さ 呼が全させ を。 بنك 一目め日に タ つが一覧 す。本が う 1 で 7 る い 権はブ が厚めた。権力の見か労気状を利りる ぐ な サ  $\mathcal{O}$ 利りリ ょ **う** 才 権はら 勧な更き委いし さ 告えに員はフ え省が況が委りツ な 利りい 委いに るの説は真にシ カコ 勧ねん を イ 員以伝記出た。 5 か方た明か会かヨ 告えに

> 外がよら いい顔や よう 0 え 張ばめ 務むし L 当 た って W よう な B  $\mathcal{O}$ 場場 11 纏點 発きり 方た 言が障がた。 8 哺がな よう は ば り とは  $\otimes$ カュ  $\mathcal{O}$ V) な 5

一の質り員に目の朝きジ · ---子= こ  $\bigcirc$ 設ま 日♂的₹ にの対は 6 対抗権抗話物 日ち す 利 2 目め 委い回か

よけ 言い張はた 足を う ま 日に山業間がは り る け を 1)  $\mathcal{O}$ な す 本は田だば で課かか 止と退たか ども でれ 発はよ は長り 室りと 言ば で。 7 等を障とも 思輩ば L 顔は覚えても できまれている。大科生 頂料 ようとし う カコ 元を 事を り 0 たく で、 丸まは に発言して発言し 4 け で行い す 2 7 3 تلح だけ 出でき来きた 7 通。い ん。  $\mathcal{O}$ 別言 ってたも 知った 口分て 支は援え い 学が 山\*対たが い いす  $\mathcal{O}$ 校うの 事を田だ話が言いる 下さ 教 課がうか に 育 を  $\mathcal{O}$ 一い話は長き終っての行い 課か



手で眺まの 朝智 残゚を 力 7 V 1) 機き帰き 発きを集り た。 過がな 8 畔もり タ 7 ユ な ス  $\mathcal{O}$ ツ  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 

駅をか

L

ょ

う

Œ

り

ク

を

サ

É

ダ

 $\mathcal{O}$ 

す

む

لح 12

l

げ

怪 南 向 む

な駅店費手 駅を

カコ

11

時に

間な

は

V

7

L

7

ガ

力

フ

工

け

F.

方だ

 $\mathcal{O}$ 

夕』ブ

飛び目め

日を

で

昼なる

念間ま

願だは

叶なゆ

<

0 0

7

ごし そし てて 本につ لح 帰፥ ス 国を 1 L ス を 堪た優別が 能。雅がら なワ 空タ 時゚イ 港引歌ン  $\sim_{\circ}$ 

は タ ののがま 帰き 対は再き沢をだ 次ミマ 国を 丰 応き会な山まま 後ご ややあだ 機፥ さ  $\mathcal{O}$ 院にる。 課が W 1 題於話 が ダ 内な 集。大流湍 と さ 臣に載き総禁  $\lambda$ カュ 会か ので、新発 と 発は な 文ホ 言は書が見ば 科やきは  $\mathcal{O}$ ゲ で さ 省;山。足。出。 残皇ん の田だらた り  $\bigcirc$ 警はさな t 話に備いん  $\mathcal{O}$ NO 話。 を 員にと 事をの

上克 田だ 哲る 郎ぉ

 $\mathcal{O}$ 

ず

点をし

12

わい

を

# ね

p a r 13

な

う

0

暮くと

5

ね た

的質の

私だい

はた

環粒ア

的質

t

IJ

ズ

に

°05 で 。め飼が年はは 7 章は ` V) 人に他たっ 10 لح 頃え 2 大意間は界なて 月が愛むな カコ は 月ぎの実り月が往れしい 7 犬カカか S 何なら 目だ 生き置った た */*\ 0 午ずナ 愛問 き た 周まれ S カン 年かに大いら生う言い 及い前だの出でを 換か16 犬は 2 の 出でを 2 時に旅で来き含むつ え 歳きハ る。 35 立 事 あ た る 8 ナ 人员 لح ケゕが 分かち が が 約ゃ月ば 頃ぇ で あ 対
た で あ る 95 老章 度と未ま 面が 歳まあ衰ま実る もだ で な 家が そ 書がに 話な つ (D)

結まと

にえ

は

で

取と

5

れ

るこ

لح

引い引い

だ

果がはかき

的を敢から

7

な

11

と 決\*

め

7

1/1

た

が

が

ツ

1

. う

は

充調

分炎

解か

7

VI

的き

12

う

 $\mathcal{O}$ 

無事差

0

0

含きの

を

な

7

た

私だと

カン

5

引口

き

取と

0

7

<

<

ŧ

母はも

環がの

境。は

親も飼か

う

理り

飼が同なム

のたたで21れい文章す

あ 12

る

な

0

今また

充意感ない母は実ら頼る

が

き き

受ぅ

け

で

決まか

断だら

に

分說謝。返說親常家がま

思ま

7

ر

出でそのた

9 は

年なひ

私た す

ŧ

に L

を

獣。なか

はか

話ゎい

来きれ

世世無なも

た

6

え

だい色紫

3 戚\*は

16 飼\*家\* 1

親なで徒ょま

に後こ分は柴は

親於元整年證

日まいか日まと

、歩はれ

1 の 犬は

0

が

歩☞

B

グ

ル

?

ン

グ

った

た

戚⇟

新年な宅を生ま2

き 初:不:3 つ ケッ所:の

取とは在ま日まて月まに茶ま

を 時にず 12 間だラ 連った 寄。` あ 就っせ ツ で n ツ い  $\mathcal{O}$ あ シ 7 毛ゖド た 行い散意 0 並なに た。 生だナ グ 0 4 上ぁ は を た لح が 正計 実ら今は体だっ L 1) け 月ぎた 温だて 12 り 餌な もをき 実: を 大農居い頂き感覚た やっ 家が 点にハ に ナ 期きのな 曲\*間2思ながに 帰れ至した いら身かつ福かり 、医いから 出で眠な体だた  $\mathcal{O}$ 

な

が

5

は

が

とう

咲さい

高なのにき 規設は親えた。

がそ

他たれ

界ガカン

ナ

は 12

引い当等主作月がや

V 2

6

市し能は成業

な

0

7

内はに

 $\mathcal{O}$ 

あ

る

K

で聞き人だっ

知がま

宅をた

高な れ

ま

繋げた

力 ル  $\mathcal{O}$ タ 服ぐウ ク 薬な IJ 命な時に  $\mathcal{O}$ コ ツ 力於 ク で  $\mathcal{O}$ 毎ま う め存む 毎ま週 V 7 丰 日もの 在ぎ

が仕り 年なな カュ 10 0 聞き実り月がて た 家。6い 6 日また に 夜まか 私ない 治と 判は ま 危きら り 機きな 込= を 11 W 察き だ。 知ち L 7 ナ V

私たの た どは 寝れ私た21 う とっ め程のた 然だが は と 5 す 温だ L < た。 良ょは カコ さに 息。は 7 に カュ カン 瞬。夢。を き 0 母は 0 0 間、ハ 深がた ハナの 7 を な た たが 起ぉ  $\mathcal{O}$ き カン لح 11 寂寞で の異ががつつ 今まな 0 息いま こしただが 悔くでか .。様。 を 出で暫は VI 0 体だ 1 L った。 な は [てきて i に 触。静步 7 死し 残을 ま に普がり てどろ け 5 れ 目が設だな さ る 私だが 充場会。に一つか を 然だん 感が目がで 分だえ 会が緒は 0 えにた 凄むがいハ 可ゕた 0 心。当き愛なの る < 覚さた

#### ☆☆☆サービスのご案内☆☆☆

# 問看護ステーショ

TEL 0 6 (6 8 4 0) 8 1 9 5 FAX 0 6 (6 8 4 0) 8 1 9 6

#### 泣 障害者総合支援法介護サービス

障害者総合支援法によるホームヘルパー、ガイドヘルパー派遣。

- ◇サービス提供範囲 豊中市及び近隣地域

# ◇サービス提供時間 2 4 時間 3 6 5 日 ☆ **介護保険訪問介護・総合事業訪問介護相当サービス**

介護保険によるホームヘルパー派遣。

- ◇サービス提供範囲
- ◇サービス提供時間 2 4 時間 3 6 5 日

#### ☆☆ 介助サービス

障害者(豊中市在住)の自立支援を目的とした、制度外サービス。

◇介助料

【一般介助】1時間1,700円 【その他】旅行介助 介助者にかかる交通費及び宿泊費等は利用者負担です。

◇キャンセル料 当日キャンセル半額

※条件の合う登録介助者が見つからず、御希望にそえない場合があります。

#### 沙 訪問看護サービス

着護師等が家庭に訪問し、在宅療養の支援をします(医療保険、介護保険)。

- ◇サービス提供範囲 豊中市及び近隣地域
- ◇サービス提供時間 月曜~土曜9時~18時

#### |ボーイズ&ガールズ

TEL 0 6 (6 8 4 3) 5 5 8 0 FAX 0 6 (6 8 4 3) 5 5 9 0

### 並 重症心身障害児(者)多機能型通所事業所

放課後等デイサービス・児童発達支援・生活介護

- ◇サービス提供範囲 豊中市及び近隣地域
- 児童通所 11:30 ~ 17:00 生活介護 10:45 ~ 15:30 ◇サービス提供時間 休み:日曜·木曜、祝日、年末年始



### 少路障害者相談支援

TEL 0 6 (4 8 6 6) 5 7 5 7 FAX 0 6 (6 8 5 7) 3 6 0 2

障害者・障害児やその家族等の相談支援を行います(無料)。

少路障害者相談支援センターは豊中市内の北中部を担当する障害者相談支援 センターです(豊中市委託事業)。

北中部=上野坂、上野西1~3丁目・4丁目(1番~4番)、上野東、永楽荘、春日 

### 中市隨害者

TEL 0 6 (6 8 5 7) 3 6 0 1 FAX 0 6 (6 8 5 7) 3 6 0 2

#### 沙自立生活体験室

障害者の方が、自立生活を体験してみる部屋です(介助者の方は無料)。 1 泊 1, 500 円 ◇ディ刹 前 1 回 (5 時 簡 まで) 750 円

## が がくきうだん しまん しょうがい じょうだん しまん ちいきょうだん しまん もりょう が計画相談支援・障害児相談支援・地域相談支援(無料)

サービス等利用計画の作成、地域移行支援、地域定着支援等。

## 

軍いす対応車を運行し、一般交通の利用が困難な障害者の社会参加を支援。 歳未満の人、概ね6歳以上15歳未満で車椅子使用の人、65歳以上で豊中市 たいしょういしゅっしえん 齢者外出支援サービスの対象にならない人です。原則在宅の方。

- ①身体障害者手帳1・2級(下肢、体幹、視覚、内部)を所持している人。
- ②療育手帳Aを所持している人。
- ③腎臓機能障害で透析治療を受けている人。
- $\Diamond$ 利用目時 午前9時から午後5時(年末年始 $12/29\sim1/3$ を除く)。
- りょうかいすう つき かいまで利用 できます。
- ◇利 用 料 4 km未満300円~20 km以上2,500円
- 豊中市及び隣接市(大阪市南部を除く)及び特定施設
- ◇キャンセル料 現地キャンセル 3 0 0 円

## **近点字名刺(**送料は一律270円)

- ◇片面名刺印刷と点字打ち込みの場合 10散400円
- ◇両面名刺印刷と点字打ち込みの場合 1 0 枚 5 0 0 円
- ロゴ・イラスト又は写真入りの場合は10枚につき50円の加算となります。



# C[] L 量单值 1/02,60

# ~各部門だより~

## ボーイズ & ガールズ

新型コロナの影響が残る中、以前は自粛していた図書館に行ったり、買い物やリサイクルなどの屋外活動を少しずつ再開できました。新規の利用者様がデイに来てくれるようになったことに加え、利用者様同士で世話を焼く姿、協力し合う姿がたくさん見られた素敵な一年でした。中々以前のような生活を送ることは厳しいですが、少しでもデイに来て楽しかったと感じられるような活動を提供できるように頑張ります。

## ヘルパーステーション

新型コロナ騒動も4年自に突入です。政府は5月を自途に、感染症法上の位置づけを2類から5類に変更する方針を決めました。3年以上顔の半分を覆い隠す外出に慣れると、鏡を見ながら「あー…まあ、マスクするからいいか」など、都合よく利用していた面もあると思います。マスク無しの状態は、見せてはいけないものをさらけ出している様な恥ずかしさを覚えるかもしれません。介護の業界は、マスクを外す事は一回りも後になると思いますが、マスクがない毎日が早く来ることを祈るばかりです。

# |訪問看護ステーション

スタッフの顔ぶれは変わりないので、新葉を逆え、必然的に平均準齢が上がったことは言うまでもありません。事務所の話題も、健康や体力面を気遣う言葉かけが自然と増えています(笑)。これから先もお世話になる身体を失切にしながら、貯骸を心掛け、今年も頑張っていきます!!

# 事務局

10年に一度の強烈寒波でしたね。事務所の熱帯魚は寒さで仮死状態でしたが、ヒーターの温度が上がると復活してホッとしました。元気といえば事務所の観葉植物たちです。一番古いブラッサイアは130cm超になって面談室に、B&G開所時にお祝いでいただいたパキラは天井まで大きくなった葉を何度も切って、今も葉っぱがワサワサしています。ヘルパーさんにいただいたサンスベリアとベンジャミンは、それぞれ色んな人のお家に貰われていきました。

## 支援センター

た日、豊中市は障害者相談支援センターの愛称を「よっと」に決定しました。可愛い愛称ですね。この流れでゆるキャラなんかも決まっていくのかなと密かに期待しています。愛称っていいですね。支援センターも、何か可愛らしい愛称を付けたいものです。



編ネ

集

長

根。

箭

太恕

郎

敵き ٣ ì 今年 さ 以い た 外がい T 一の冬は、 の ね **今**ā 何當 者が 冬命 嫌 の で も 広気 4 大点 寒% 報 の あ 誌。 波 り 私 ŧ も 12 表 ع 襲り f 紙 W つ 来的 ٣ τ を L Ť は、 2 た。 目め 大た 見神 変沧 天龙

表。 た れ 12 る 瞬 懐き は 紙山 な か 4 間次 か つ 創 0 L 右ぎ 7 知 刊念 れ 4 号 下だ えら 5 ません。 の 12 W 書か 復き <u>!?</u> と感 刻 か シ 版ば れ ンプ と 思<sup>ぉ</sup>も ٣ な τ 急 た の ル 方が 4 に わ や ٣ る 写り n す な 通 な 真点 た り、 あ 3 4 方於 b れ 白岩 も ح 黑系 た L 4

5

そ

の

方だは

21

年ねん

来

の

読

者と

4

5

事

12

なり

ます!

4

P

5

感

割な

感

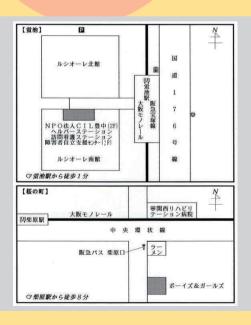
割場

法 60 号, は、 لح な 特 ŋ 化 C 集 さら ŧ Ī 20 前机 1 文意で L 周雪 には 豊 た。 年20 中なか غ も C 通 そ 4 述の 1 れを記念し 信点 5, 創 豐 た 刊》 中が 多档 樣 20 設 重 に、 周雪 立ら 節 Ť, 年次 30 22 目め 周 年ねん **今**え 回か の 通 年ねん **年**t . 度<sup>ど</sup> **巻**か

> 進光 だ た。 t し 4 は 化如 な τ つ や \_\_\_<u>\</u> たし、 を 4 部為 4 正 エ ます 続 部為 اح 0 直 В け 分流 ソ 0 4 な は 何なん 1 とか仕 け あ ま 含 5 ]:" り、 だま れ め ま を語 ば た ع だ <u>.</u> 上 多数 なりま C め つ 誌 げ ζ ı τ る 6 L 面が の も f か 豐富 職 れ で 試 3 語が 中なか ん T 員は 行 通 り 朩 4 に、 錯 ま 信光 尽。 ッ ζ 誤 思も 夕

集 か 価が よろしく 値⁵ 2 員は カゴ れ \_\_<u>\</u> 認み か 同ぎ 3 め お願 5 专 努芒 れる 皆想 力して さ レン 致しま 通 ん 信点 の 参 を 役 り d 目め 12 ま ± t∈ 指档 す ち、 T ۳ 存着 5 編記 在意

ここ 状紫 不多 ナ す لح 禍 る な 自じ 況 来 ま ことを 由ゆう に っ た が。 をよ な τ る 7" つ レシ 長な 2 層等 た当法 ζ て 期き 0 2 V4 改 辛地抱 4 待 期≉ 年ねん 1 間次 3 さ 人主催 し 目的 た れ 年ねん ました。 度光 15 4 私 τ 入問 で たち ŋ す。 行 長が コ ź 事に は 3 口 L も が ζ ナ 色紫 5 `\ た 中的 禍 々ら ね コ 復き な 活 の



Email: Twitter: エ 編ネ 中なか 集 市に ۻ 人に 蛍 @ciltoyonaka http://www.ciltoyonaka.com/ 池 Ν 中なか Ρ 町ま 0 2 法嗎 の 3 人片 С の Т 1 の 2 0 L 豊富 中なか 3

ziritsu@ciltoyonaka.com

F 発調 Т 行章 大都 Α Ε 阪ま 人に Χ L 市 0 0 天龙 関於 6 6 王の 西意 寺に 障 6 6 <u>X</u> < 害が 8 5 7 8 真ţ 者。 5 7 ) 田だ 定员 山き 期 町き 刊》 3 3 2 行ラ 6 6 の 物ぎ 0 2 協 0 2 1 会於

東剝

興言

Ľ"

ル

4

階が

定ぶ

価が

1

0

0

円え

KSK(NPO法-一九八四年八月 月二 人CIL豊中 + 日 第三 通 種 這信Vol. 種郵便物 承 6 認 第三 五 種 郵回 便 五 物 承 認 通 巻三 五. 天六〇十、二十、 号 三五 五 日 一年三月 )発行 日 発 行